

安心・安全、希望の京都づくりのための

Kyoto セーフコミュニティ News

第3号 2006.8.15

京都府セーフコミュニティニュース

京都府安心・安全まちづくり推進プロジェクト

問い合わせ先(企画環境部企画参事)

TEL.075-414-4344 FAX 075-414-4363

E-mail:kikaku@pref.kyoto.lg.jp

交通安全子供自転車全国大会で亀岡市立千代川小学校チームが優勝!

8月1日、2日に東京ビッグサイトなどで開催された第41回交通安全子供自転車全国大会で、亀岡市立千代川小学校チームが団体の部で優勝しました。この大会は全国の小学生が、交通ルールの学科テストと安全走行と技能走行の2つの実技テストで、自転車の安全走行に関する知識と技能を競うもので、全国優勝は京都府代表としては初めて!亀岡市は13年連続で京都府代表校に選ばれています。市内の小中学校では全国大会出場をめざして、日頃から熱心に練習に取り組まれてきており、府大会でも上位を独占するほどのレベルの高い地域です。



詳しくは、財団法人全日本交通安全協会のホームページをご覧ください。<http://www.jtsa.or.jp/topics/T-67.html>

セーフコミュニティが亀岡市の広報に掲載!

7月23日付けの亀岡市広報「きらり 亀岡」でセーフコミュニティを取り上げられました。「互いの思いやりが安心に」というタイトルから始まり、セーフコミュニティの必要性や内容をわかりやすく市民の皆さんに広報されています。そして、「亀岡市では、「こころの通い合うまち」としてセーフコミュニティの基準となり、さらに亀岡モデルを世界へ広めていきたいと考えています。」と締めくくられています。もちろん、京都府も一緒になって日本初のセーフコミュニティをめざしていきます。(次ページに広報誌抜粋を添付しています)

右の広報クイズにチャレンジしてみてください!残念ながら締切日は過ぎていますが。

詳しくは、亀岡市ホームページをご覧ください。<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/kouhou/0607/mokuji.html>

広報クイズ

事故やけがを予防し、安心して暮らしていくために地域住民が力を合わせてその原因を取り除く取り組みは何でしょう。

ヒントは、この広報紙の中にあります。

締切日 平成18年8月11日(金)(必着)

はがきにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、広報紙[キラリ☆亀岡]の感想を書いて、市地域情報課 〒621-8501(住所不要)へ。正解者の中から抽選で5人に「大納言かすてら」と図書券を差し上げます。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

第2回セーフコミュニティプラン検討委員会が開催されました。

8月2日に第2回検討委員会が開催され、学校安全会会長や小児科医の先生、亀岡警察署、保健師など実際に地域で活動されている方々にも参画いただき、「子供の事故防止」について意見交換を行いました。

また、政策立案メンバーの青森県の反町委員から、青森県の取組やスウェーデンの取組についての紹介がありました。その中で、実際にスウェーデンで子どもたちが着用しているヘルメットを披露され、「子どもがかぶりたいたいと思うヘルメットを作ることが着用率向上の秘訣」と強調されました。

さらに意見交換を進める中で、次のような課題が指摘されました。

- 子どもの事故に対しては、犯罪に比べ警戒心が弱く、周囲の人たちの警戒心を高めることが大事であり、いろいろな場面で、関係者を取組に参画させるプロセスが必要
- 母子家庭が増加傾向にあり、子どもの事故も母子家庭で増加傾向にあるのではないかと。母親へのサポートも子どもの事故防止に重要
- 啓発事業に関しては、如何にして事故予防のための情報を全ての親に提供するかが課題
- 子どもの事故防止に関し、様々な取組が実施されているが、縦割り傾向が強く、それぞれで完結している。もっと効果を高めるためには、セクショナリズムを排して、地域が一丸となって取り組むことが大切

詳しくは、京都府のホームページをご覧ください。<http://www.pref.kyoto.jp/k-san/safecom/plansch1.html>



互いの思いやりが安心に

セーフコミュニティの取り組み



「私たちが暮らしている、不慮の事故や傷害、病気など、不安をもたらすさまざまな問題があります。特に子どもと安全や高齢者の介護、交通事故や自害者を増やさないことなどは、日本の社会全体の大きな課題となっています。しかし、これら私たちの周りで起こる事故や病気には、必ず原因があり、予防することができます」と考えられています。

そのため亀岡市では、関係機関や大学、京都府をはじめ、地域の皆さんと一体的な連携体制であるセーフコミュニティを築き、とうすれば「地域安全・安心」をさらに充実させることができると考えられています。また、セーフコミュニティの取組みをきっかけに、近年希薄化した「隣近所とのつながり」が深まり、誰もが安心して暮らせるまちづくりへのつながり

H17 取り組み事業の効果額

| 削減額 | 収入増加額 |
|-------------------------|------------------------|
| (公共工事のコスト削減、職員人件費の削減など) | (公有財産の売却、収納率向上対策の強化など) |
| 4億5,800万円 | 1億7,500万円 |

投資額 (土づくりセンターの改修など)
8,300万円

効果額 (削減額と収入額の合計から投資額を差し引く)
5億5,000万円

平成17年度 行財政改革の取り組み結果

亀岡市では近年、厳しい財政状況の中で従来と異なる行政サービスや、業務を続けることが極めて困難になっています。そのため、平成十五年からの四年間を取り組み期間とする「新亀岡市行財政改革大綱」により、最小の経費で最大の効果が発揮できる体制づくりを進めてきました。体制健全な財政状況を持続しつつ将来的にも安定した行政運営の確立を目指し、市民満足度の向上につなげたいと考えています。

それぞれの取り組みが連携 安全・安心の地域づくり

一九八九年、WHO（世界保健機関）は、「全ての人間は、健康と安全に対して平等な権利を有する」と宣言し、セーフコミュニティの認証制度を設けました。以来、世界の多くの地域が認証されてき



セーフコミュニティとは

「みんなに事故・犯罪・けががなく、安心して暮らしたいためにはどうすべきか」を地域住民が中心となり考え、力を合わせてその原因を取り除いていくとする取り組み。

H17 実施済みとなった主な取り組みとその成果

- ☆市民の参画と共働
パブリックコメント制度の運用開始で市政の透明性を高め、市民の市政参画の機会を拡大。環境美化条例の制定により、まちの美化に向けた市民意識向上の基盤を整えた。
- ☆事務事業の見直し
文化センターの土曜開館の実施や住民税当初課税業務の見直しなど、市民サービスの向上と行政事務の効率化などを進めた。
- ☆管理体制の強化
委員会定数の削減を図るなど、分権時代に対応した簡素で効率的な組織・機構の整備を進めた。
- ☆健全な財政基盤の確立
収納率向上対策の強化を図るため、納付指導や催告の徹底、訪問事務に努めた。
- ☆人材育成・活用と給与の適正化
人材育成基本方針を改定し、高度化、多様化する市民ニーズに対応できる職員育成に向けビジョンを確立した。

やさしい健康講座 第七回

ピロリ菌と胃十二指腸潰瘍

市民の暮らしの健康に関し、市立病院の医師が、専門分野についてアドバイスします。

亀岡市立病院
消化器科 田村和之 医師
専門分野：消化器科、消化内科
夜間救急科、泌尿科

ピロリ菌とは、胃の中心部に寄生する細菌です。一九八〇年代に発見され、胃潰瘍や十二指腸潰瘍を引き起こすことが分かってきました。日本人の半数が感染していますが、十歳以下の子供は感染率が〇・〇％の状態となつてきました。これは衛生状況がよくなったことが、時代に感染しやすくなったことによるもので、胃十二指腸潰瘍は、上部消化器の癌の発症率も高くなっています。

ピロリ菌は、胃の中心部に寄生する細菌です。一九八〇年代に発見され、胃潰瘍や十二指腸潰瘍を引き起こすことが分かってきました。日本人の半数が感染していますが、十歳以下の子供は感染率が〇・〇％の状態となつてきました。これは衛生状況がよくなったことが、時代に感染しやすくなったことによるもので、胃十二指腸潰瘍は、上部消化器の癌の発症率も高くなっています。

ピロリ菌は、胃の中心部に寄生する細菌です。一九八〇年代に発見され、胃潰瘍や十二指腸潰瘍を引き起こすことが分かってきました。日本人の半数が感染していますが、十歳以下の子供は感染率が〇・〇％の状態となつてきました。これは衛生状況がよくなったことが、時代に感染しやすくなったことによるもので、胃十二指腸潰瘍は、上部消化器の癌の発症率も高くなっています。

平成十五年度からの三千万円、百三十九万円の取組み額、約十七億五千万円の経費削減などの効果も上げました。

こうした効果額は、市民の皆さんへの要望や緊急度、実施効果などを踏まえて編成した、平成十八年度当初予算の貴重な財源として、市民サービス

のさらなる向上と、将来を見据えて行政経営に活用していきます。

今年度は、新亀岡市行財政改革大綱の仕上がり年度です。市民の皆さんの期待に応えるため、さらなる改革に取り組んでいますので、ご理解と協力をお願いします。